



岡本太郎展

The Endeavors of Taro Okamoto

2021 **4/24 sat - 7/4 sun**

主催：川崎市岡本太郎美術館
開館時間：9:30~17:00(入館は16:30まで)
休館日：月曜日(5月3日を除く)、5月6日(木)、5月7日(金)
観覧料：一般900(720)円、高・大学生・65歳以上700(560)円、
中学生以下無料 ()内は20名以上の団体料金

川崎市 **岡本太郎美術館** Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki
〒214-0032 川崎市多摩区枡形7-1-5 生田緑地内 tel.044-900-9898 <http://www.taromuseum.jp>

The Endeavors of Taro Okamoto

岡本太郎展

戦後、旧態依然とした日本の画壇や社会に対峙し、自らの力で新しい芸術の創造に挑んだ岡本太郎。画家として出発した岡本は、絵画という狭い枠組みを超えて壁画や彫刻、家具や日用品に至るまで様々なジャンルに挑戦し、数多くの作品を制作。巨大なモニュメント制作にも挑み、《太陽の塔》を代表作とするパブリックアートを日本各地に設置しました。

岡本太郎はまた、雑誌や著作、テレビやラジオなど、様々なメディアを通じて幅広い分野にわたり旺盛な言論活動を行ったことでも知られています。岡本の発する力強いメッセージは、美術界だけでなく広く一般の人々に影響を与えました。岡本の強靱な思想は、少年期に岡本一平、かの子という芸術一家のなかで育ち、両親と対等に議論を交わすことで培われ、青年期のバリで時代の先端をゆく芸術家や思想家たちと交流し、ともに活動するなかで身につけたものです。

生涯をかけて時代に挑み、ジャンルを超えて多彩な作品を生み出し、メッセージを発信し続けた岡本太郎。本展では、挑み続けた岡本太郎の足跡を、多彩な作品と岡本の言葉とともに紹介します。

岡本太郎の作品や言葉の数々は、現在のコロナ禍で閉塞した社会を生きる私たちをも勇気づけ、時代を乗り越えて生きる力を与えてくれるでしょう。本展によって、これからの時代を私たちはどのように生きていくべきかを考えるきっかけとなれば幸いです。

展覧会関連イベント

「生命の挑み」

ATSUSHIが
岡本太郎の作品に挑みます。

出演：ATSUSHI（舞踏家）

日時：7月4日（日）15：00～16：00

会場：企画展示室、母の塔

料金：無料（要観覧料）

その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。
<http://www.taromuseum.jp>



《挑む》1980年 紙本着色



《装える戦士》1962年 油彩・キャンバス



《哄笑》1972年 油彩・キャンバス



《挑み》1980年 油彩・キャンバス



《重工業》1949年 油彩・キャンバス



《千手》1975年 アルミニウム



《疾走する眼》1992年 油彩・キャンバス



《ノン》1970年 FRP



《夜》1947年 油彩・キャンバス



〈交通〉

- 小田急線向ヶ丘遊園駅 一南口から徒歩17分 一南口から市バス3分（5番のりば・溝口駅南口行・溝19系統（1時間に1～2本））「生田緑地入口」下車、徒歩8分 一南口からタクシー4分（日本民家園前下車）徒歩5分 一北口から小田急バス10分（2番のりば・専修大学前行・向10系統（1時間に2～6本））終点「専修大学前」下車、生田緑地西口園路（通行可能時間8：00～17：30）を通過して徒歩6分
- 車利用の場合は、生田緑地東口・西口駐車場（有料）をご利用ください。

同時開催
常設展「岡本太郎の食」
2021年4月15日（木）～7月4日（日）

川崎市岡本太郎美術館
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki
〒214-0032 川崎市多摩区枳形7-1-5 生田緑地内
tel.044-900-9898 <http://www.taromuseum.jp>

